

ファイナンシャルプランナーより、  
お役立ち情報をお知らせいたします

# F P 通信

2021年4月 第28号

発行

ベイヒルズ 税理士法人

〒221-0052

横浜市神奈川区栄町1-1 KDX横浜ビル6階

TEL:045-450-6701 FAX:045-450-6706

HP: <https://www.bayhills.co.jp>



## 4月からの価格改定とインフレ対策

新年度がスタートしましたが、毎年4月は様々なものの価格改定がされます。今回、改定される代表的なものをまとめてみました。



価格改定されるもの	改定の内容
横浜市水道局	平均 12%値上げ
家庭用電気	世帯で年間 1,000 円値上げ
食用油	1 キロ当たり 20 円以上
輸入小麦	5.5%値上げ
サンマ缶詰	30 円値上げ
モスバーガー	10~50 円値上げ
丸麺製麺	10~20 円値上げ
一風堂	ラーメンは値下げ、替え玉、餃子など値上げ
ディズニーリゾート	3/20 から変動価格制へ。
介護報酬	0.7% (4~9月 0.8%)
三菱 UFJ 銀行の ATM 手数料	110 円値上げ (毎月 25 日、月末は値下げ)
三井住友銀行のコンビニ ATM 手数料	110 円値上げ (毎月 25 日、26 日の昼間は無料)

### インフレ

物やサービスの値段が上がり、お金の価値が目減りすることをインフレと言います。例えば、1,000 円で買っていたものに 1,200 円かかるという具合に、量も中身もまったく同じ、クオリティーは変わらないのに、お金の負担だけが大きくなり、1,000 円で出来ていたことが 1,000 円で出来なくなります。つまり、1,000 円に 1,000 円の価値がなくなってしまうのです。



### ライフプラン(人生設計)

老後のために 2,000 万円必要だと思い、頑張って目標額を貯めたとしても、将来、物価が上がっていたとすると 2,000 万円では足りなかったということになりますので、ライフプランを考えると時にはインフレ部分も考慮に入れましょう。



### 現金

保有する資産を現金のみで持っているのはリスクです。現在日本の預貯金の金利は、普通預金 0.001%、定期預

金 0.01%なのに対し、インフレ率は 2018 年が約 1.0%、2019 年が約 0.5%ですので、預貯金では物価上昇を上回るほどの金利はつかないため、預貯金で資産を増やしても購買力は減っていることとなります。

### 株式

株式は一般的に、企業の業績が改善すると予想されれば株価が値上がりし、業績の悪化が見込まれれば値下がりしやすいとされています。

物価が上昇すれば企業の売上高は上昇しやすく、業績の改善、株価の上昇が期待できます。

### 投資信託

個別の株式を選ぶのが大変な場合は、運用をファンドマネージャーに任せると投資信託もお勧めです。世界経済の動きに連動するインデックスファンドを選べばインフレリスク対策になります。

### 外貨

日本より金利の通貨の預金や外貨建て保険なら、円の預貯金より高い利息が期待できますし、日本でインフレが起こると「円というお金の価値が下がる」ことから、外国為替相場は円安に向かう可能性が高くなります。円安になったときのことを考えた場合、資産を円以外の通貨でもっておくことはリスクヘッジになります。



### iDeCo や NISA の活用

株式や投資信託を始めるのなら、税金のメリットがある iDeCo や NISA がおすすめです。節税分を考慮すると運用効率が格段にアップします。ただし、iDeCo は 60 歳まで現金を取り出せない、NISA は投資金額と投資期間の枠があるので事前に確認してください。



現在と将来のお金のことを考えてみませんか。気になることがある方は、お気軽にファイナンシャルプランナーまで、お問合せ下さい。  
連絡先：兒玉 045-450-6701